地域スポーツイベントの開催による地域活性化戦略の構築

－「第３回塩尻ぶどうの郷ロードレース」のアンケート調査結果の分析－

成耆政・竹内信江・中島弘毅・鈴木尚通・葛西和廣・田中正敏

A Study on Construction of Local Revitalization Strategy by Holding of the Regional Sporting Events

Kijung SUNG, Nobue TAKEUCHI, Koki NAKAJIMA,
Naomichi SUZUKI, Kazuhiro KASAI and Masatoshi TANAKA

〈目　次〉

Ⅰ．はじめに

Ⅱ．アンケート調査結果の分析
　1．大会参加者の年齢層と職業
　2．参加形態と参加種目
　3．参加回数と同伴者
　4．交通手段と前日の宿泊状況
　5．大会終了後の宿泊と予定（立ち寄り先）の有無
　6．大会への参加理由
　7．前日受付とウェルカムパーティーへの参加の有無
　8．地域振興券の購入意思と購入金額
　9．大会の参加への情報源
　10．参加者の塩尻に対する意識の変化
　11．他地域でのロードレースの参加経験

Ⅲ．地域活性化戦略の構築

Ⅳ．おわりに

【謝辞】
【参考資料】

Ⅰ．はじめに

スポーツイベントの開催により地域(経済)の活性化を図ろうという試みは今まで多数行われ，これからも都市の再開発や地域活性化の１つの方策として多く用いられると思われる．このようなスポーツイベントの開催の効果としては，スポーツ関連施設の整備による社会資本の蓄積，スポーツイベント参加者による消費誘導効果，地域住民の地域連帯感の向上，そしてイベント開催都市のイメージ向上効果などを挙げることができる[1)]．

2011年９月25日(日)，今年で今の体制になってから第３回目を迎える「塩尻ぶどうの郷ロードレース」大会は，子供から高齢者まで幅広い世代を対象に，塩尻市民はもとより，全国から多くのランナーが参加し，健康・体力づくりとして気軽に参加できるコースから，自己記録をめざすトップレベルのアスリートが，互いに競い合うコースまでが設定されている．この大会開催の主な趣旨としては，「健康スポーツ宣言都市」である塩尻において，スポーツを楽しむことにより，塩尻地域の活性化の一助になることをめざしている．とくに，今大会では，東日本大震災および長野県北部地震の被災者を応援するための被災地復興支援チャリティー大会として，募金活動なども行った．大会の主競技場は松本歯科大学の陸上競技場で，参加種目は２㎞（お楽しみコース，年齢制限なし)，３㎞，５㎞，そして10㎞コースとなっている．

本研究グループによるアンケート調査の主な目的としては，地域スポーツイベントの開催により地域活性化への方策を探ることにある．本研究グループは，第１，２回目の大会は主催者側からアンケート調査の依頼を受けて，経済波及効果の推定のための調査を行い，産業連関分析による本ロードレースの経済波及効果分析を行った．今回は「塩尻ぶどうの郷ロードレース」の参加者などに対し，参考資料に示したアンケート調査票を用い，直接面接法により質問紙調査を実施した．調査場所は会場である松本歯科大学グラウンドの横に設置された無料ぶどう配布場所であった．ゴール直後のランナーおよびその周辺にいた参加者に対して調査を行い，被調査者は本ロードレースの参加者など約2000人中289人から有効な回答をえた．性別は男性175人（60.6%)，女性は114人（39.4%）で，参加者の居住地は長野県167人，長野県外122人であった．

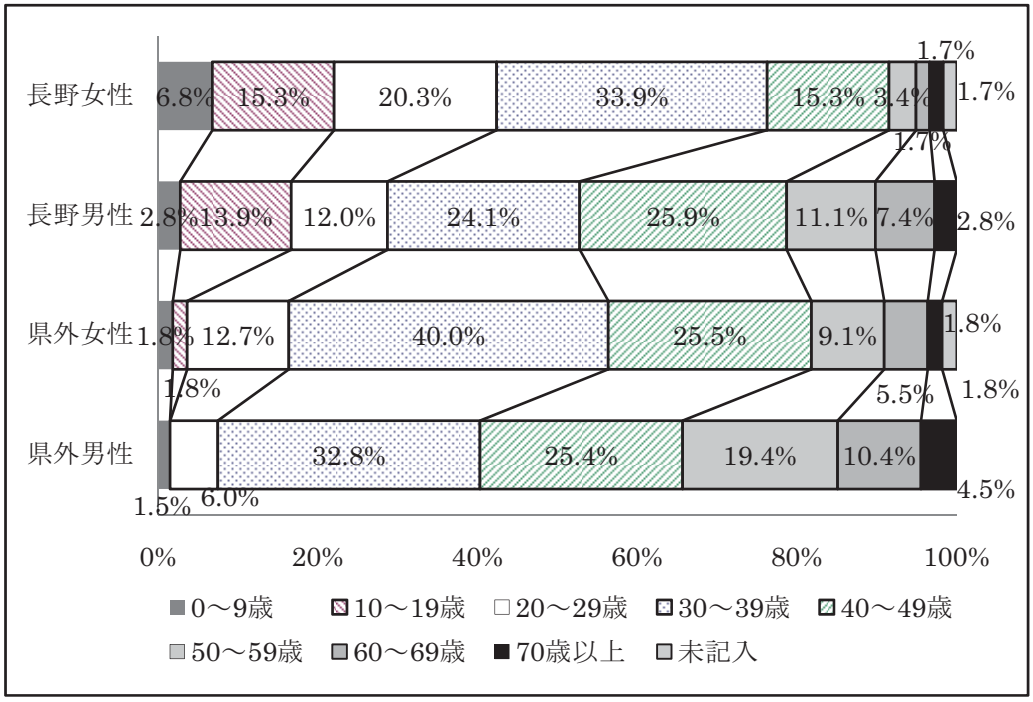
本稿では，地域スポーツイベントの開催による地域活性化方策を探るために，本ロードレースの参加者の中で，長野県内居住の男性（長野男性という）108人と女性（長野女性という）59人，および長野県外居住の男性（県外男性という）67人と女性（県外女性という）55人の4つのクラスに分けた集計結果の分析を行った．

Ⅱ．アンケート調査結果の分析

１．大会参加者の年齢層と職業

〈図１〉は「アンケート回答者の年齢層の分布」を示す．回答者は，長野男性では40代が28人（25.9%）と最も多く，以下30代26人（24.1%)，10代15人（13.9%）であった．長野女性では30代が20人(33.9%)と最も多く，以下20代12人（20.3%)，10代および40代がそれぞれ9人（15.3%）であった．県外男性では30代が22人（32.8%）と最も多く，以下40代17人（25.4%)，50代13人（19.4%）であった．県外女性では30代が最も多く22人（40.0%)，以下40代14人（25.5%)，20代7人（12.7%）であった．過去2回の大会の集計結果と同じく，10代の参加者は，県内が県外に比べ多かった．

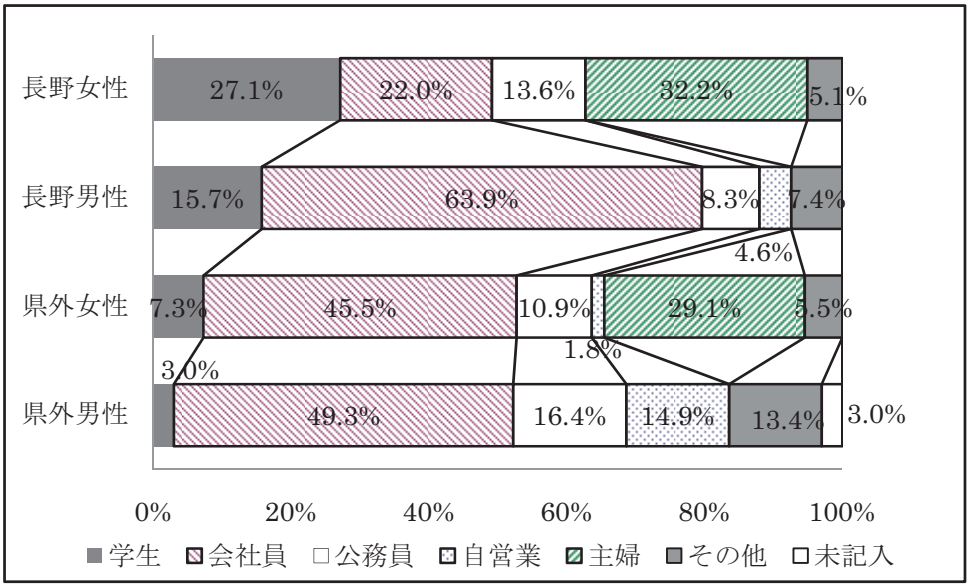
１）原田宗彦『スポーツイベントの経済学』平凡社新書，2002年，52～59頁．



＜図１：居住地別・男女別参加者の年齢層＞

〈図２〉は「職業の集計結果」を示す．長野男性では会社員が最も多く69人（63.9%）で以下17人（15.7%），9人（8.3%）であった．長野女性では主婦が最も多く19人（32.2%）で以下，学生16人（27.1%），会社員13人（22.0%）であった．県外男性では会社員が最も多く33人（49.3%），以下公務員11人（16.4%），自営業10人（14.9%）であった．県外女性では会社員が最も多く25人（45.5%）で以下主婦16人（29.1%），公務員6人（10.9%）であった．

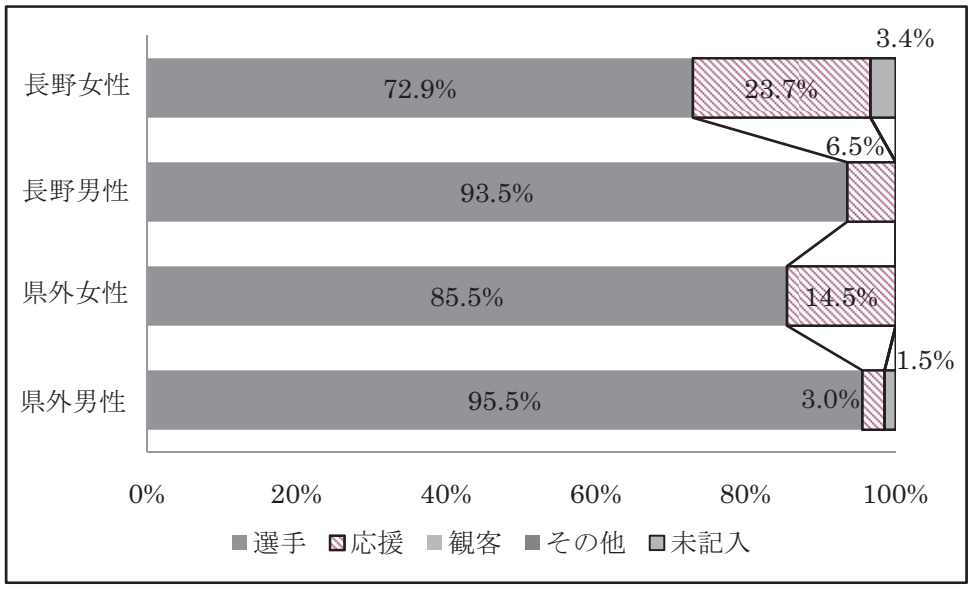
長野女性では主婦が一番多かったのに対し，他の区分では会社員が最も多かった．公務員の割合はどの区分でも約10%程度であった．



＜図２：居住地別・男女別参加者の職業＞

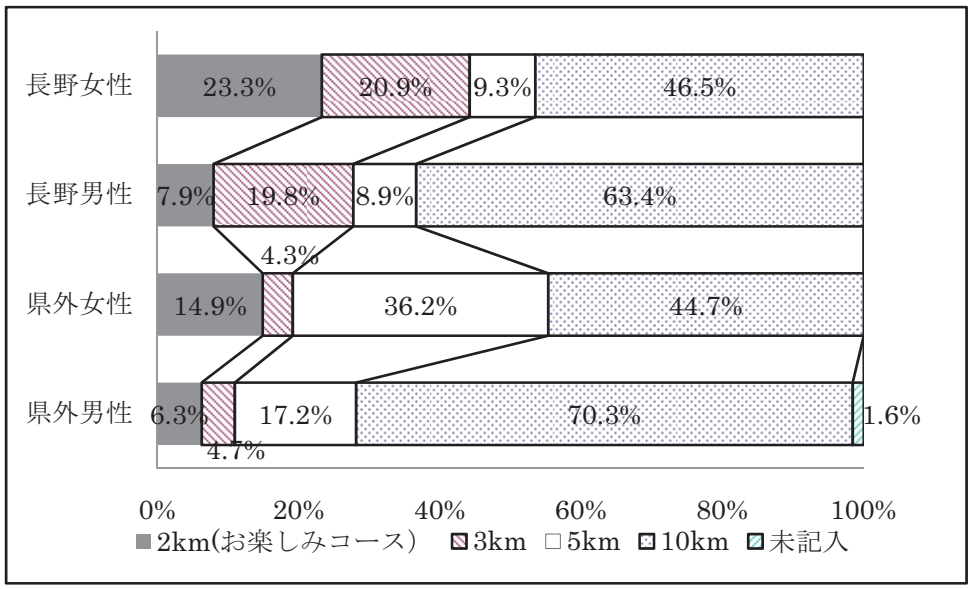
2．参加形態と参加種目

〈図３〉は「参加形態の集計」を示す．長野男性では選手が101人（93.5%），応援が７人（6.5%）であった．長野女性では選手が43人（72.9%），応援が14人（23.7%）であった．県外男性では選手が64人（95.5%），応援が２人（3.0%）であった．県外女性では47人（85.5%），応援が８人（14.5%）であった．第１回と第２回の調査と同様の結果であり，殆どの回答者が選手として参加していた．女性では県内，県外とも応援として参加している割合が男性のそれよりも多かった．



＜図３：居住地別・男女別参加者の参加形態＞

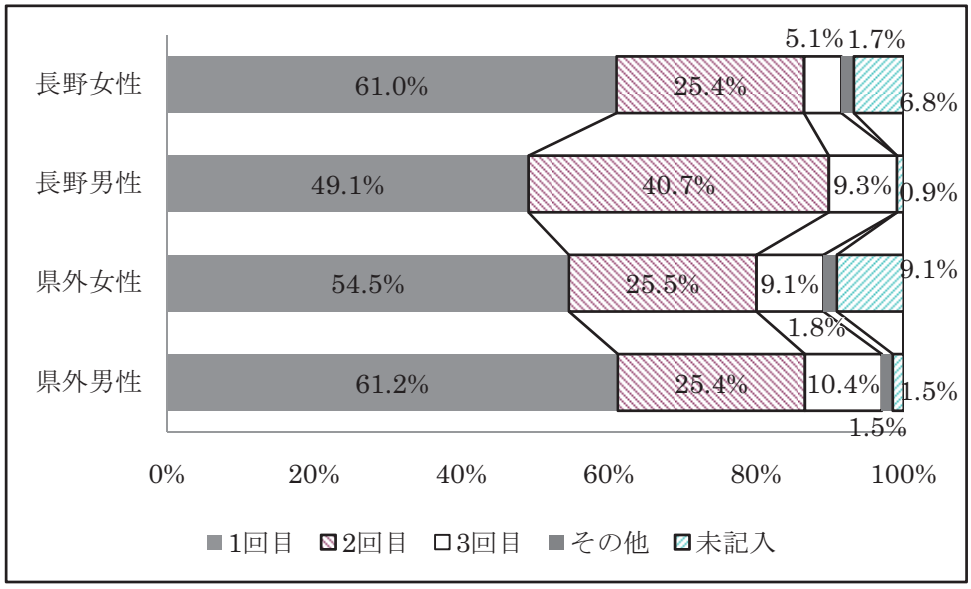
〈図４〉は「参加種目の集計結果」を示す．長野男性では10kmが最も多く64人（63.4%），以下3kmが20人(19.8%)，５kmが９人（8.9%)であった．長野女性では10kmが最も多く20人(46.5%)，以下２km（お楽しみコース）が10人（23.3%），３kmが９人（20.9%）であった．県外男性では10kmが最も多く45人（70.3%），以下５kmが11人（17.2%），２km（お楽しみコース）が４人（6.3%）であった．県外女性では10kmが最も多く21人（44.7%），以下５kmが17人（36.2%），２km（お楽しみコース）が７人（14.9%）であった．すべての区分で10kmでの参加者の割合が最も多かった．また長野女性では２km（お楽しみコース）の参加が２番目に多かったのに対し，県外女性では５kmが２番目に多かった．これは県内女性と県外女性では走る目的が異なるためと考えられる．



＜図４：居住地別・男女別参加者の参加種目＞

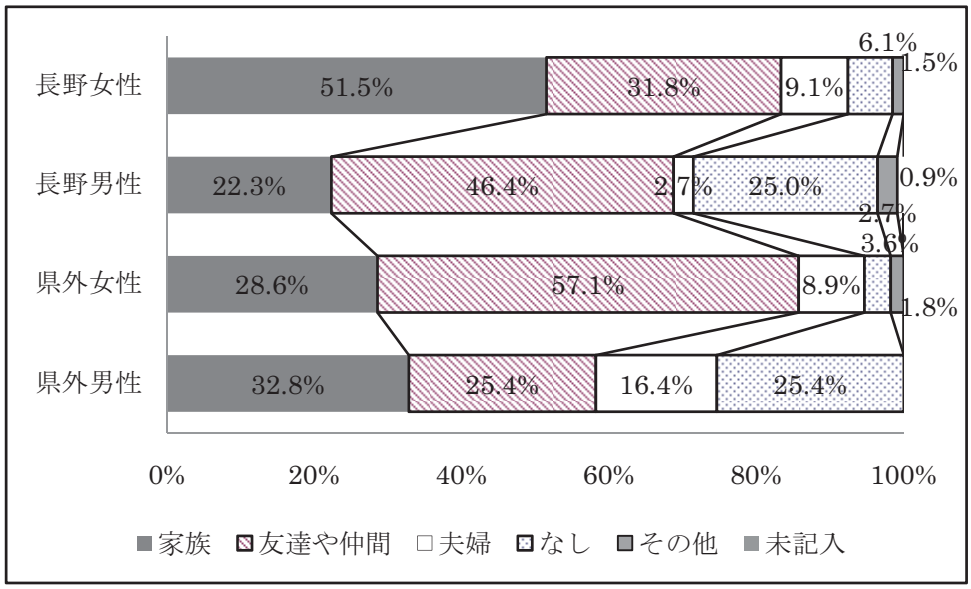
３．参加回数と同伴者

〈図５〉は「参加回数の集計結果」を示す．長野男性では初めての参加が53人（49.1%）で，２回目の参加が44人（40.7%），３回目の参加が10人（9.3%）であった．長野女性では初めての参加が36人（61.0%），２回目の参加が15人（25.4%），３回目の参加が３人（5.1%）であった．県外男性では初めての参加が41人（61.2%），２回目の参加が17人（25.4%），３回目の参加が７人（10.4%）であった．県外女性では初めての参加が30人（54.5%），２回目の参加が14人（25.5%），３回目の参加が５人（9.1%）であった．どの区分も初めての参加は約半分以上であるが，２回目以上の参加が前回の調査より多く，リピート率は高くなっていた．これは，本大会への参加者が定着しつつあることを示していると考えられる．



＜図５：居住地別・男女別参加者の参加回数＞

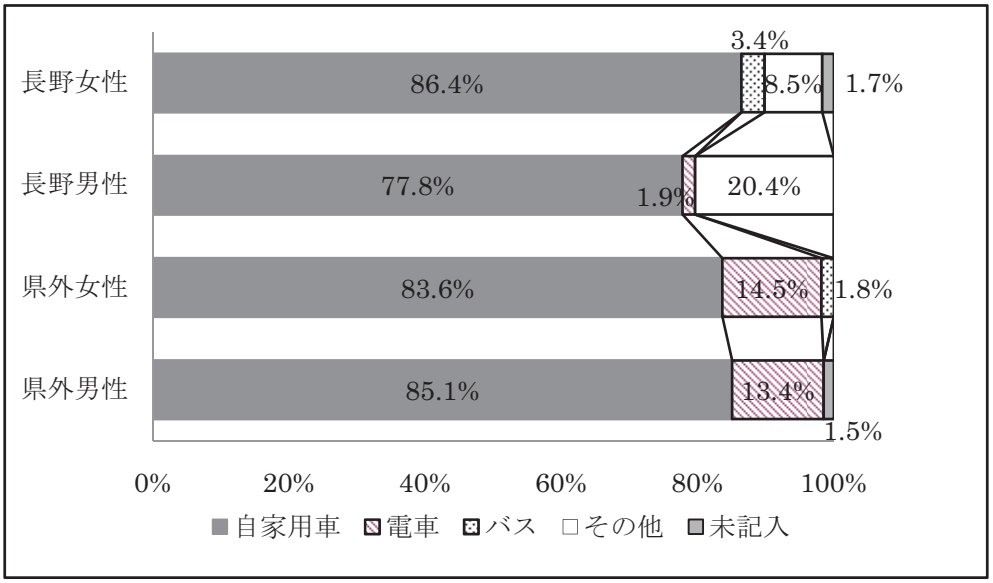
〈図６〉に「参加者の同伴者の集計結果」を示す．長野男性では，一番多かったのは友達や仲間で52人（46.4%），以下一人が28人（25.0%），家族が25人（22.3%）であった．長野女性では，一番多かったのは家族が34人（51.5%），以下友達や仲間が21人（31.8%），夫婦が６人（9.1%）であった．県外男性では，一番多かったのは家族で22人（32.8%），以下友達や仲間および一人がそれぞれ17人（25.4%），夫婦が11人（16.4%）であった．県外女性では，一番多かったのは友達や仲間で32人（57.1%），以下家族が16人（28.6%），夫婦が５人（8.9%）であった．長野女性は２㎞（お楽しみコース）の参加が23.3%と４分の１近く，長野男性や県外の男女に比べて多い割合であった．これは，家族で参加した割合が多かったためと考えられる．県外女性では友達や仲間との参加が多かったので５㎞，10㎞での参加が多かったと考えられる．



＜図６：居住地別・男女別参加者の同伴者＞

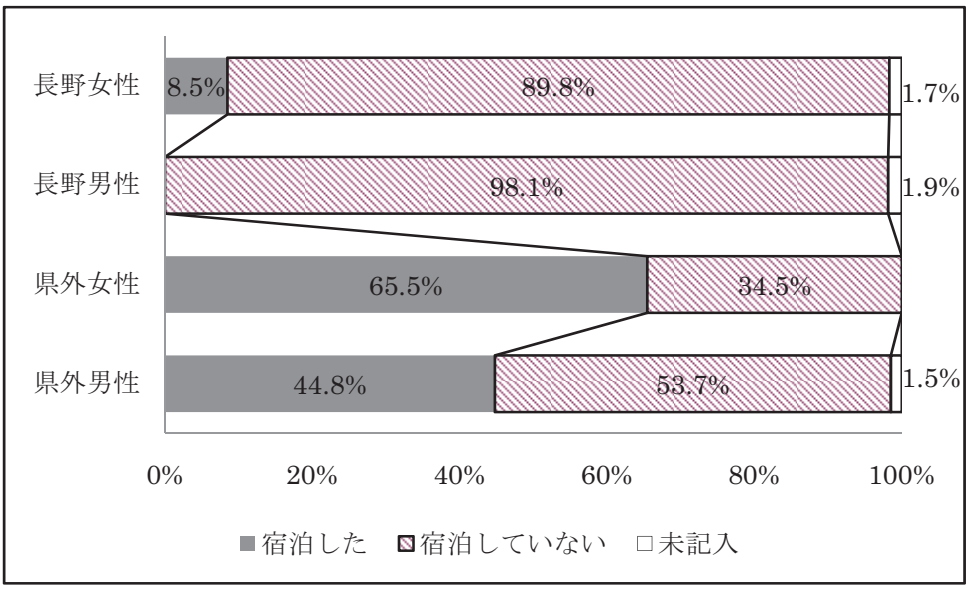
４．交通手段と前日の宿泊状況

〈図７〉に「主な交通手段の集計結果」を示す．長野男性では，一番多かったのは自家用車の84人（77.8%）で以下その他が22人（20.4%），電車２人（1.9%）であった．長野女性では，一番多かったのは自家用車が51人（86.4%）で以下その他５人（8.5%），バス２人（3.4%）であった．県外男性では一番多かったのは自家用車の57人（85.1%）で以下電車の９人（13.4%），未記入１人（1.5%）であった．県外女性では一番多かったのは自家用車の46人（83.6%），以下電車８人（14.5%），バス１人（1.8%）であった．県内外ともに交通手段では自家用車が一番多かったが，県内では自家用車の次にその他が多かった．これは塩尻市内，もしくは近郊の参加者が自転車，あるいは徒歩であったと考えられる．



＜図７：居住地別・男女別参加者の交通手段＞

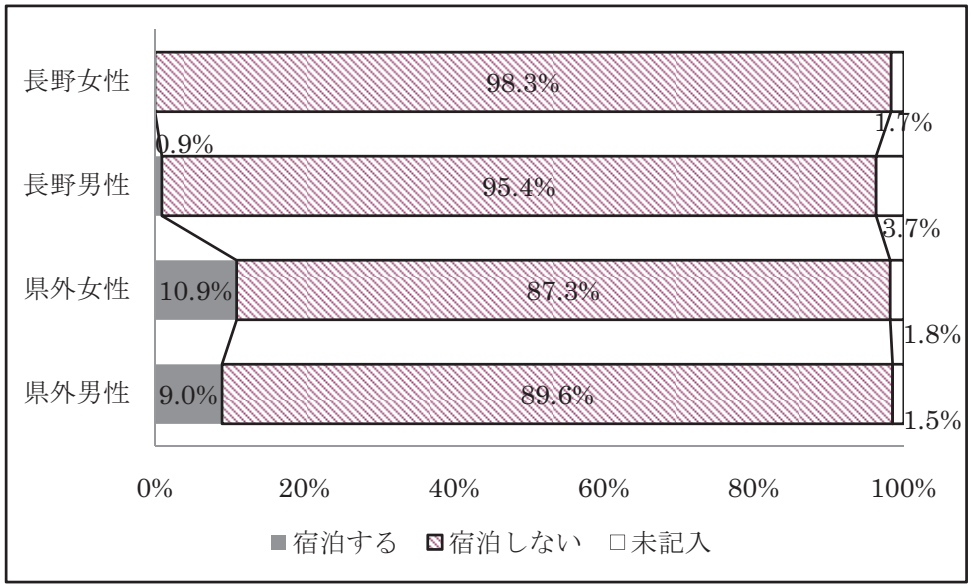
〈図８〉に「大会の前日の宿泊の有無の集計結果」を示す．長野男性では宿泊したが０人で，宿泊していないが106人（98.1%）で無回答が２人(1.9%)であった．長野女性では宿泊したが５人（8.5%），宿泊していないが53人（89.8%），未記入が１人（1.7%）であった．県外男性では宿泊したが30人（44.8%）で宿泊していないが36人（53.7%），未記入が１人（1.5%）であった．県外女性では宿泊したが36人（65.5%），宿泊していないが19人（34.5%）であった．県外女性を除きいずれも宿泊していないが最も多かった．さらに宿泊した施設は県外男性および県外女性ではホテルがトップであった．宿泊地は県外男性では８人（26.7%）が塩尻市内で５人が塩尻市外（16.7%），17人（56.7%）が未記入であった．県外女性では14人（38.9%)が塩尻市内で９人（25.0%）が塩尻市外で13人（36.1%)が未記入であった．塩尻市内県内女性ではその他のみであり，これは親戚の家であった．



＜図８：居住地別・男女別参加者の前日の宿泊＞

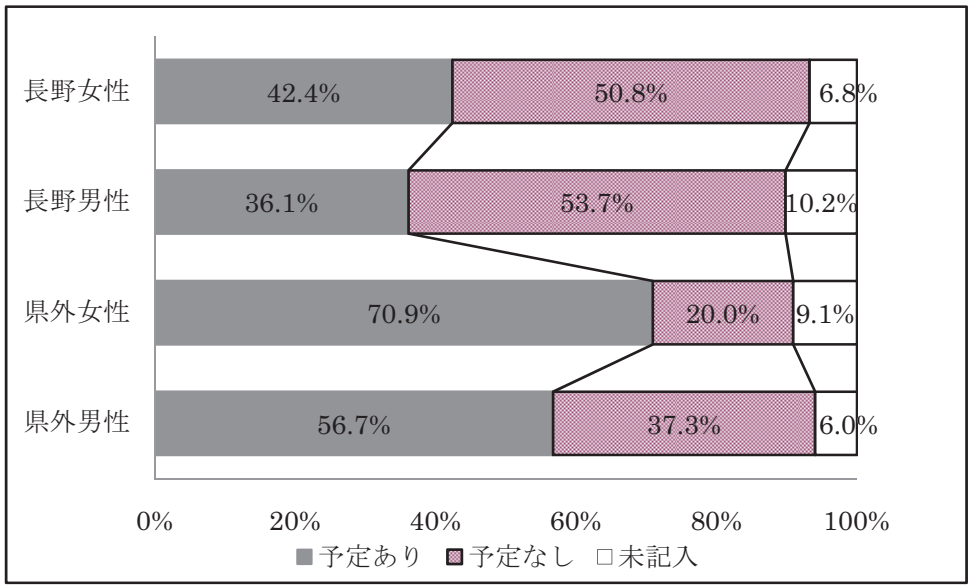
5．大会終了後の宿泊と予定（立ち寄り先）の有無

〈図９〉に「大会終了後の宿泊の予定の有無の集計結果」を示す．長野男性では宿泊するが１人（0.9%），宿泊しないが103人（95.4%），未記入が４人（3.7%）であった．長野女性では宿泊するが０人，宿泊しないが58人（98.3%），未記入が１人（1.7%）であった．県外男性では宿泊するが６人（9.0%），宿泊しないが60人（89.6%），未記入が１人（1.5%）であった．県外女性では宿泊するが６人（10.9%），宿泊しないが48人（87.3%），未記入が１人（1.8%）であった．いずれの区分でも宿泊の予定はないが最も多かった．宿泊施設では全区分でホテル３人，旅館５人，その他３人，未記入２人であった．また宿泊した者の宿泊地は全区分で塩尻市内３人，塩尻市外５人，未記入５人であった．



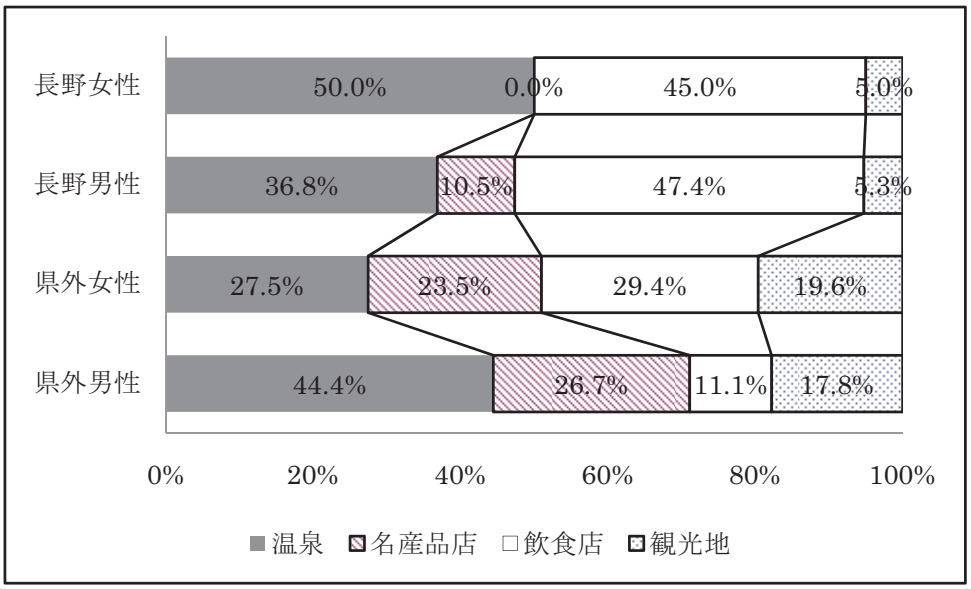
＜図９：居住地別・男女別参加者の大会終了後の宿泊＞

〈図10〉に「大会終了後の予定の有無の集計結果」を示す．長野男性では予定があるが39人（36.1%），予定がないが58人（53.7%），未記入が11人（10.2%）であった．長野女性では予定があるが25人（42.4%），予定はないが30人（50.8%），無回答が４人（6.8%）であった．長野県外男性では予定があるが38人（56.7%），予定がないが25人（37.3%），無回答が４人（6.0%）であった．県外女性では予定があるが39人（70.9%），予定がないが11人（20.0%），未記入が５人（9.1%）であった．男女とも県内者は予定がないが予定があるに比べ多かったのに対し，県外者は，予定がある参加者が，予定がない参加者に比べ多かった．これは，県外者はレースのほかに観光などの楽しみを持って参加していることが伺える．



＜図10：居住地別・男女別参加者の大会終了後の予定＞

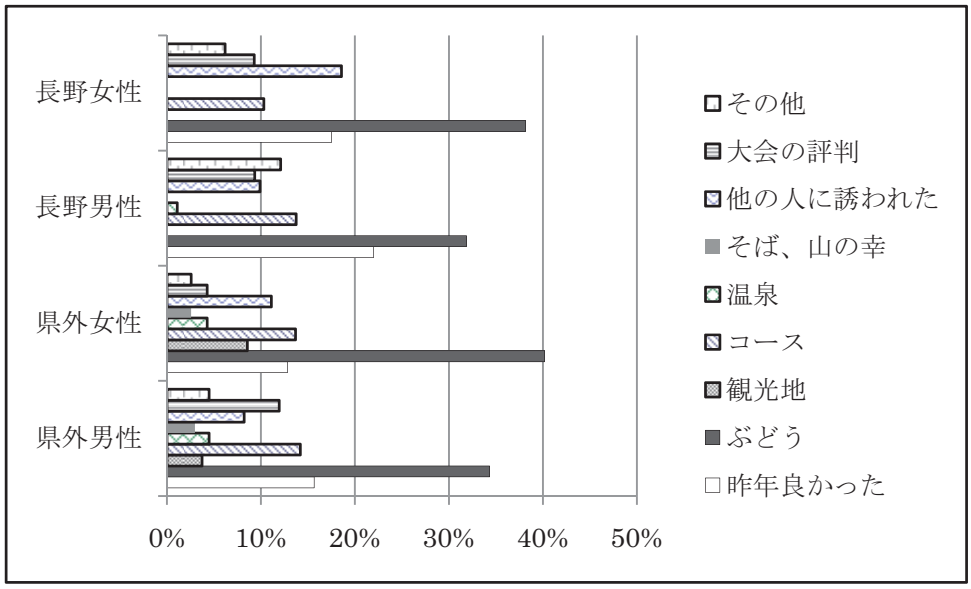
〈図11〉に「大会終了後の立ち寄り予定先（複数回答可）の集計」を示す．長野男性では一番多かったのが飲食店の18人（47.4%），以下温泉14人（36.8%），名産品店４人（10.5%）であった．長野女性では一番多かったのが温泉の10人（50.0%）で以下飲食店９人（45.0%），観光地１人（5.0%）であった．県外男性では一番多かったのは温泉の20人（44.4%）で以下名産品店12人（26.7%），観光地８人（17.8%）であった．県外女性では一番多かったのは飲食店の15人（29.4%）で以下温泉14人（27.5%），名産品店12人（23.5%）であった．



＜図11：居住地別・男女別参加者の大会終了後の立ち寄り先＞

6．大会への参加理由

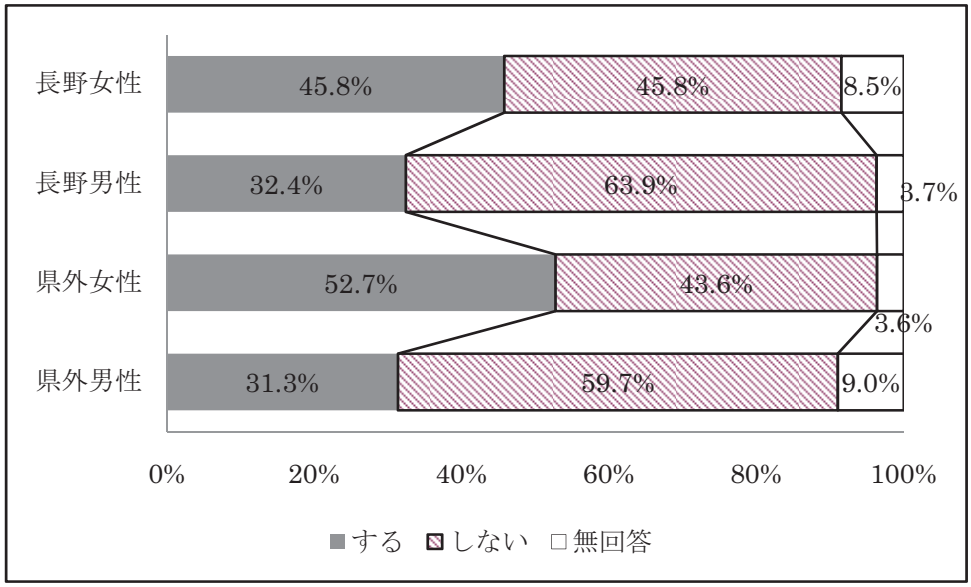
〈図12〉に「参加理由（複数回答可）の集計」の結果を示す．長野男性では一番多いのはぶどうが食べられるからで58人（31.9%），以下昨年良かったからが40人（22.0%），コースが良いが25人（13.7%）であった．長野女性では一番多いのはぶどうが食べられるからで37人（38.1%），以下他の人に誘われたからが18人（18.6%），昨年良かったからが17人（17.5%）であった．県外男性では一番多いのはぶどうが食べられるからの46人（34.3%）で，以下昨年良かったからが21人（15.7%），コースが良かったからが19人（14.2%）であった．県外女性では一番多いのはぶどうが食べられるからの47人（40.2%）で，以下コースがよい16人（13.7%），昨年良かったからが15人（12.8%）であった．どの区分でもぶどうが食べられるからが一番多かった．また，昨年良かったからがどの区分でも参加理由の上位３つに入っており，過去２回の大会の成功を示している．コースが良いは長野女性以外では２番目と３番目に多かった．長野県女性以外では５㎞と10㎞での参加割合が多く，コースを楽しみながら走りたい人が参加したと考えられた．長野女性は参加理由の２番目に他の人に誘われたからがあり，これは２㎞（お楽しみコース）での参加が多かったと考えられた．



＜図12：居住地別・男女別参加者の参加理由＞

7．前日受付とウェルカムパーティーへの参加の有無

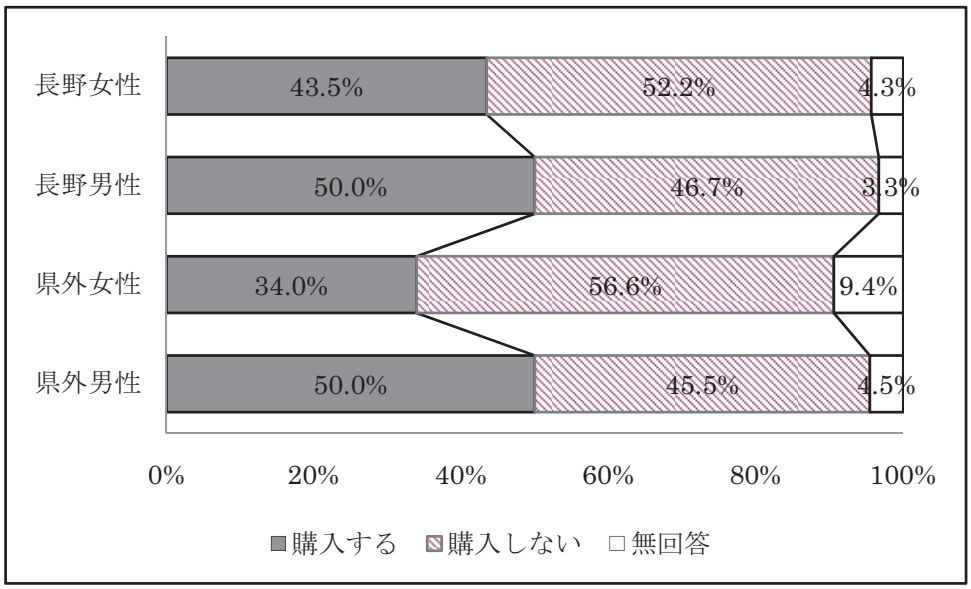
〈図13〉に「前日受付とウェルカムパーティーへの参加の有無の集計結果」を示す．長野男性では前日受付とウェルカムパーティーに参加するが35人（32.4%），参加しないが69人（63.9%），未記入が４人（3.7%）であった．長野女性では前日受付とウェルカムパーティーに参加するが27人（45.8%），参加しないが27人（45.8%），未記入が５人（8.5%）であった．県外男性では前日受付とウェルカムパーティーに参加するが21人（31.3%），参加しないが40人（59.7%），未記入が６人（9.0%）であった．県外女性では前日受付とウェルカムパーティーに参加するが29人（52.7%），参加しないが24人（43.6%），未記入が２人（3.6%）であった．長野男性および県外男性は参加しないが参加するより多く，長野女性は参加すると参加しないが同じ割合で，県外女性では参加するが参加しないより多かった．女性は大会以外に楽しみがあれば参加したいと考えている．



＜図13：居住地別・男女別参加者の前日受付とウェルカムパーティーへの参加＞

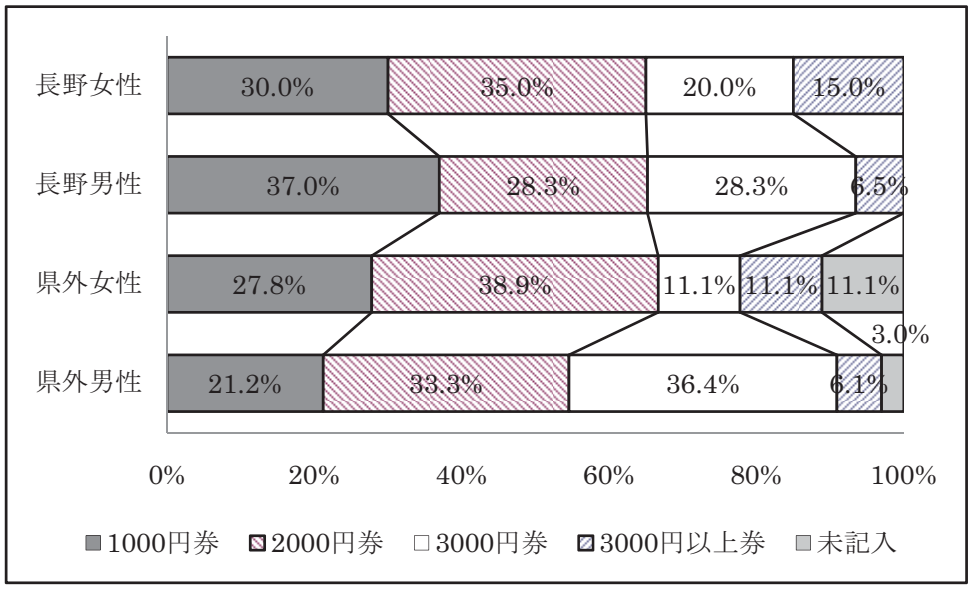
8．地域振興券の購入意思と購入金額

〈図14〉に「地域振興券の購入意思の有無の集計結果」を示す．尚，集計は20歳以上の者に対して行った．長野男性では購入するが45人（50.0%）で購入しないが42人（46.7%），無回答が３人（3.3%）であった．長野女性では購入するが20人（43.5%），購入しないが24人（52.2%），未記入が２人（4.3%）であった．県外男性では購入するが33人（50.0%），購入しないが30人（45.5%），無回答が３人（4.5%）であった．県外女性では購入するが18人（34.0%），購入しないが30人（56.6%），未記入が５人（9.4%）であった．県内外とも男性が購入すると答えた人の割合が購入しないと答えた人の割合より多かったのに対し，女性では購入すると答えた人の割合が購入しないと答えた人の割合が少なかった．男女で地域経済に対する考え方の違いが見られた．



＜図14：居住地別・男女別参加者の地域振興券の購入意向＞

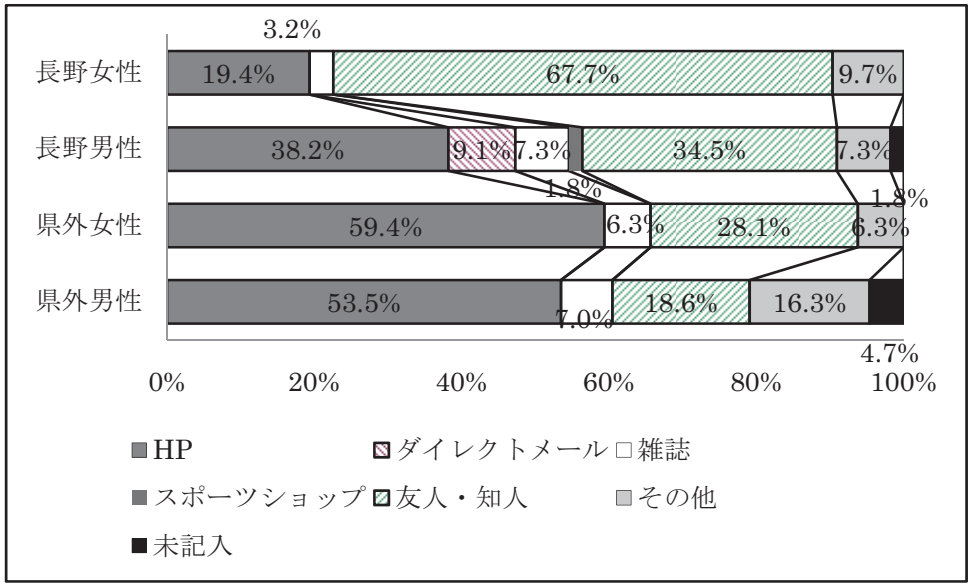
〈図15〉に「地域振興券の購入をすると答えた人の購入金額を集計した結果」を示す．長野男性では3,000円券が最も多く17人（37.0%）で，以下2,000円券，1,000円券ともに13人（28.3%）であった．長野女性では2,000円券が７人(35.0%）最も多く，以下1,000円券６人（30.0%），3,000円券４人(20.0%)であった．県外男性では3,000円券が最も多く12人(36.4%)で，以下2,000円券が11人(33.3%)，1,000円券が７人（21.2%)であった．県外女性では2,000円券が最も多く７人（38.9%)で，以下1,000円券５人（27.8%），3,000円券，3000円以上，無回答がそれぞれ２人（11.1%)であった．女性は県内も県外も2,000円券の割合が最も多かった．2,000円位が出費してもよい金額と考えられた．



＜図15：居住地別・男女別参加者の地域振興券の購入金額＞

９．大会の参加への情報源

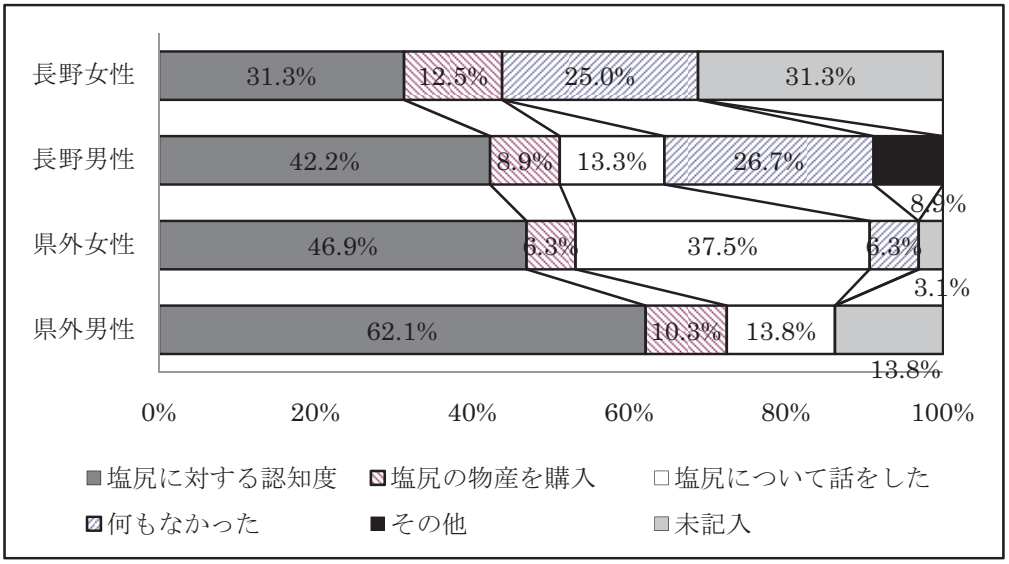
〈図16〉に「大会をどこで知ったかの回答に対する答えの集計」を示す（複数回答可）．長野男性では大会のホームページが最も多い21人（38.2%)で，以下，友人・知人が19人（34.5%），ダイレクトメールが５人（9.1%）であった．長野女性では友人・知人が最も多く21人（67.7%）で，以下大会のホームページが６人（19.4%），その他が３人（9.7%)であった．県外男性では大会のホームページが最も多く23人（53.5%)で，以下友人・知人が8人（18.6%），その他が７人（16.3%）であった．県外女性では大会のホームページが最も多く19人（59.4%）で，以下友人・知人が９人(28.1%)，雑誌とその他がそれぞれ２人（6.3%）であった．県内女性を除き，大会のホームページの割合が最も高かった．



＜図16：居住地別・男女別参加者の大会の参加への情報源＞

10. 参加者の塩尻に対する意識の変化

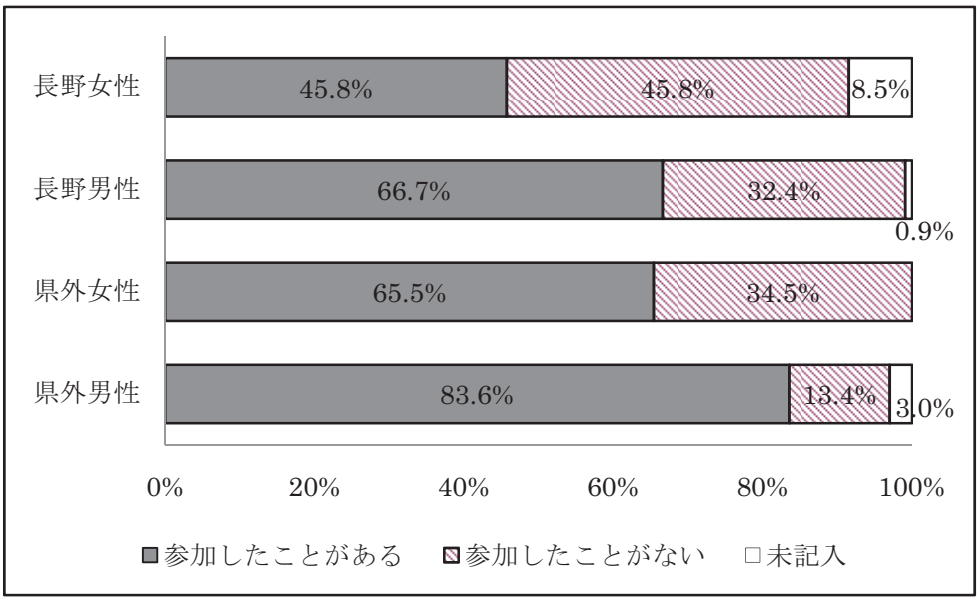
〈図17〉に「大会に参加して塩尻に対し，どんな意識の変化があったかの回答の集計」を示す．長野県男性では，塩尻に対する認知度が高くなったと答えた者が19人（42.2%）で最も多く，以下何もなかったが12人（26.7%），塩尻について話をしたが 6 人（13.3%）であった．長野女性では塩尻に対する認知度が高くなったと無回答が最も多く 5 人（31.3%）で，以下何もなかったが 4 人（25.4%），塩尻の物産を購入したが 2 人（12.5%）であった．県外男性では塩尻に対する認知度が高くなったが18人（62.1%）で最も多く，以下塩尻について話をしたと無回答がそれぞれ 4 人（13.8%），塩尻の物産を購入したが 3 人（10.3%）であった．県外女性では塩尻に対する認知度が上がったが15人（46.9%）で最も多く，以下塩尻について話をしたが12人（37.5%），塩尻の物産を購入したと何もなかったがそれぞれ 2 人（6.3%）であった．全区分で塩尻に対する認知度が上がったと答えた割合が最も高かった．長野県男女では何もなかったと答えた割合が 2 番目に多かった．長野県に住んでいるのでもともと知識を持っているためだと考えられる．



＜図17：居住地別・男女別参加者の塩尻に対する意識の変化＞

11. 他地域でのロードレースの参加経験

〈図18〉に「他地域でのロードレースの参加経験の有無の集計結果」を示す．長野男性では参加したことがあるが72人（66.7%）で，参加したことがないは35人（32.4%），未記入は１人（0.9%）であった．長野女性では参加したことがあるが27人（45.8%）で参加したことがないが27人（45.8%），未記入が５人（8.5%）であった．県外男性では参加したことがあるが56人（83.6%）で参加したことがないが９人（13.4%）で未記入が２人（3.0%）であった．県外女性では参加したことがあるが36人(65.5%)，参加したことがないが19人（34.5%）であった．いずれの区分でも参加したことがあると答えた割合が参加したことがないと答えた割合より多かった．



＜図18：他地域でのロードレースの参加経験の有無＞

Ⅲ．地域活性化戦略の構築

地域スポーツイベントの開催は社会文化的効果の側面と経済的効果の側面がある．須田は，スポーツは社会統合機能と集団表象性をもつとし，地域社会におけるスポーツの役割としての経済的・政治的効果について分析し，スポーツイベントの効果を持続・拡大させるためには地域密接型のイベントにすべきであると述べている[2]．また，大西は，スポーツによる地域活性化を施設建設というハードの側面と市民のスポーツ参加というソフトの側面からその効果を考察し，施設や組織を市民と自治体が協力してつくる必要性を述べている[3]．

本ロードレースは，今の体制になって第３回目（2011年９月25日（日））であるが，第１回（2009年10月18日（日））[4]，２回目（2010年９月26日（日））[5] のアンケート調査結果も踏まえて，地域スポーツイベントの開催による地域活性化戦略の構築を試みた．

【戦略】地域農特産物とのコラボレーション戦略

本ロードレースは大会名，「塩尻ぶどうの郷ロードレース」からも分かるように，本大会の象徴は塩尻のぶどうである．塩尻におけるぶどう[6] は，年間日照時間が長い上に，雨が少なく，紫外線も適度に多い塩尻の気候は，ぶどうの栽培に適している．塩尻のぶどう作りは，明治23年に豊島理喜治が塩尻桔梗ヶ原に約１ha の「ナイヤガラ」，「コンコード」などアメリカ系のぶどうを試植したことから始まるといわれている．現在，年間の収穫量は約4,540トンで全国有数のぶどうの産地として知られ，主に生食用である「ナイヤガラ」，「コンコード」，「デラウェア」，「ポートランド」，「巨峰」に加え，「メルロー」，「シャルドネ」などのヨーロッパ種も栽培されている．そして，毎年８月下旬から10月末までに「信州しおじりぶどうまつり」を開催し，このイベントには，21ヶ所の塩尻市観光果実直売組合の農園が参加している．

主な戦術としては，第１に，ぶどうづくしである．「ぶどうの郷ロードレース」と大会名に名乗っている本大会の売りは「ぶどう」である．イベント参加者が会場を中心にぶどうに触れられる環境づくりが大切である．今大会においては，ぶどうの食べ放題，ぶどうジュースの飲み放題が好評を博していたが，その他にぶどう関連の提供はできないだろうか．アンケートの集計から県外からの参加者は，４割以上に及ぶ．また，家族連れや子ども，女性の参加者が半数を占めている．現在，参加型のイベントが人気を博していること，塩尻市の場合は，大会会場の周囲にぶどう畑が広がっていることを考えれば，「ぶどう狩り」のような自然に直に触れ合うことの楽しみを提供することもできる．レース参加後に近場で短い時間で体験的な楽しみを得たい人，とくに家族連れの参加者にとっては，子どもとともにぶどう狩りをし，楽しい思い出をもう１つ付け加えたいと思う人も多いであろう．お土産を持ち帰りたいという人にとっても最適であろう．

２）須田直行「地域社会におけるスポーツの役割」『都市問題』84(12)，1994年，15～26頁．
３）大西　隆「スポーツと地域活性化」『都市問題』84(12)，1994年，3～14頁．
４）中島弘毅・成耆政・鈴木尚通・大搾貴史・葛西和廣・竹内信江・田中正敏「地域スポーツイベントにおける経済波及効果の計測と地域活性化戦略の構築―「第1回塩尻市ぶどうの郷ロードレース」の分析を中心に―」『地域総合研究』第11号 Part1，松本大学地域総合研究センター，2010年6月，97～133頁．
５）大搾貴史・成耆政・鈴木尚通・中島弘毅・葛西和廣・竹内信江・田中正敏「地域スポーツイベントにおける経済波及効果及び健康増進に及ぼす影響―「第2回塩尻ぶどうの郷ロードレース」の分析を中心に―」『松本大学研究紀要』第10号(通巻第62号)，松本大学，2012年1月，13～44頁．
６）「平成20年産特産果樹生産動態調査(農林水産省)」によると，長野県におけるぶどうの栽培面積は1,733.0ha で，日本一で，その生産量は21,100トンである．

第２に，塩尻特産のワインも見逃せない．主催者側は飲酒運転を心配しているようであったが，参加者からの要望にもあったように，ワインに対する期待は大きいといえる．ワインが試飲できることが定着すれば，前泊，後泊が増えることも考えられる．前日に塩尻の物産展を絡めたワインパーティーを開催すれば前泊により経済効果が上がり，安全の問題もある程度解決するだろう。参加者に安全を訴えながら塩尻特産のワインを提供するなどの積極的な試みが求められる．

第３に，食のイベントとのコラボレーションである．午前中に大会のイベントは終了してしまう．昼食をどこでとるのか．何を食べるのかは参加者の悩みでもあり，楽しみでもある．アンケート調査結果からも出店の増加を希望する声が多数あった．知らない地域で，店を探す苦労は避けたいと思う一方，折角なので地元の，または信州のおいしい特産を食したいと思う人は決して少なくないであろう．それを解消するためには，主催者側で塩尻市にある人気のそば屋マップ，飲食店マップ一覧などを積極的に提供すべきであろう．

また，その場で何か昼食としてお腹を満たすものを提供する．そば屋にブースを出してもらうよう協力依頼をするなどが考えられる．また，最近人気が出てきた「おやき」なども考えられる．松本のそば祭りのようなものを併せて開催してもいいと思う．豚汁に，地域の方々の心が詰まったおにぎりでもいいと思う．また，秋の味覚が詰まったキノコ汁，ヤマメ，ニジマスなど渓流魚の焼き魚も考えられる．

これらは，主催者側が店を出すのではなく，専門店とのコラボレーションによって主催者側の負担を減らす．そして，参加者のニーズと満足度を高めることも可能であろう．

第４に，大会運営面で，先日のみの受付制を取り入れる．本アンケート調査項目の「Q06本大会の前日に受付を行い，その後ウェルカムパーティー(ワイン，ぶどう，郷土料理，バーベキューなど)などを行ってもあなたはこの大会に参加しますか」という設問に対し，県内参加者の39.1%が参加すると回答し，県外参加者は42.0%が参加すると答えている(図13参照)．

日本国内で開催される地域スポーツイベントの中で前日のみの受付制を採用して大会は数多くある．その中で，「Mt 富士ヒルクライム」は山梨県富士吉田市で開催されるスバルラインを5合目まで自転車で登るという自転車レースである．しかし，この大会に全国から参加者が集まり，その申し込みは抽選制という人気のスポーツイベントである．この大会の参加者数は5,000人である．この大会の受付は「前日のみ」となっていて，ごく少数の地元からの参加者以外は，富士吉田市近辺の宿泊施設を利用する必要がある．富士山周辺は国立公園なので，勝手に野宿やキャンプなどはできないようになっている．しかしながら，不満の声はあまり聞けない．

この例やアンケート調査結果を踏まえ，本ロードレースでも「前日のみの受付」を積極的に考慮し，取り入れるべきであろう．

第５に，「地域振興券(仮称)」の発行を試みるべきである．本アンケート調査項目の「Q07本大会において，地域活性化の観点から「地域振興券」を発行するならばあなたは購入しますか」という設問に対し，県内参加者の46.8%が参加すると回答し，県外参加者は42.0%が参加すると答えている(図14，15参照)．

地域振興券は国の緊急経済対策の柱として，若い親の層の子育てを支援と，老齢福祉年金等の受給者や所得の低い高齢者層の経済的負担を軽減することにより，個人消費の喚起と地域経済の活性化を図り，地域の振興に資するために発行された商品券のようなものである．地域振興券交付事業は，市町村が実施主体となり，財源は全額国が補助した．地域振興券の交付対象者は，15歳以下の児童が属する世帯の世帯主（15歳以下の児童１人につき２万円）や老齢福祉年金の受給者など（２万円）である．

経済企画庁(当時)の調査によると，振興券を使った買物のうち，振興券がなければ購入しなかったと回答した買い物の総額は，振興券使用額の18％程度あった．また，より高価な買い物や多数の買物，ないし振興券がきっかけとなって行った買物によって，支出が増加したとみられる金額は，

振興券使用額の14％程度あった．これらを合計して，振興券によって喚起された消費の純増分は，地域振興券使用額の32％程度であったとみられる．結果として，地域振興券は，調査世帯については，本年3月～6月の消費を直接的に，振興券既使用金額の32％程度分，新たに喚起したとみられる．これを交付済額約6,194億円のベースに単純に換算して，年ベースのマクロの消費効果をみると，消費の押し上げ額は，2,025億円程度（GDP の個人消費の0.1％程度）と推定される[7]．

これをふまえ，塩尻地域の地域活性化のための１つの方策ともいえる本ロードレースでの地域振興券(仮称)の発行もこれからの大会運営において試みるべき重要な戦術であろう．

第６，その他の戦術として，参加者はその土地の特産品をお土産として購入したがる．今大会でも，販売している場所はどこか，直送してくれるところはどこかなどと訪ねる参加者の姿が多数目撃された．直送土産の受付をぶどうの無料配布場所のならびにおくべきであろう．また，インフォメーションコーナーの設置をし，様々なニーズに対し的確な情報を提供するなどの対応が望まれる．

駅から大会会場までの距離を見ると，遠いことが指摘されていた．送迎，または循環バスを用意するなど輸送システムに対し一考する余地もある．JR，バス会社とのコラボレーションを考え，環境面から参加者に交通公共機関の利用を訴えてもいい．ぶどう狩り，温泉，ワインの試飲などと絡めることもできる．

Ⅳ．おわりに

本稿は，地域スポーツイベントの開催による地域活性化方策を探るために，「第３回塩尻ぶどうの郷ロードレース」の参加者約2,000名の中で，本アンケート調査に回答した289名を長野県内居住の男性（長野男性）108人と女性（長野女性）59人，および長野県外居住の男性（県外男性）67人と女性（県外女性）55人の４つのクラスに分けて集計・分析結果を示したものである．

主な分析結果は次のとおりである．まず第１に，回答者の年齢層の分布をみると，長野男性では40代が28人（25.9%）と最も多く，長野女性では30代が20人(33.9%)と最も多い．県外男性では30代が22人（32.8％）と最も多く，県外女性では30代が最も多く22人（40.0％）であった．回答者の職業の集計結果をみると，長野男性では会社員が69人（63.9％）と最も多く，長野女性では主婦が19人（32.2％）と最も多い．県外男性では会社員が33人（49.3％）と最も多く，県外女性では会社員が25人（45.5％）と最も多い．

第２に，参加種目の集計を見ると，長野男性，長野女性，県外男性，県外女性の４つのすべてのクラスで10㎞が最も多く，各々64人（63.4%），20人(46.5%)，45人(70.3%)，21人(44.7%)であった．

第３に，塩尻地域の経済活性化に大きな影響を及ぼすと思われる大会前日の現地での宿泊については，長野男性０人で，長野女５人（8.5%），県外男性30人（44.8%），県外女性36人（65.5%）であった．県外女性を除き，いずれも宿泊していないが最も多かった．そして，前日受付とウェルカムパーティーへの参加の有無については，長野男性35人（32.4%），長野女性27人（45.8%），県外男性21人（31.3%），県外女性29人（52.7%）が参加するとあった．

第４に，地域振興券の購入する意思の有無については，長野男性で購入するが45人(50.0%)で，長野女性では20人（43.5%），県外男性で33人（50.0%），県外女性では購入するが18人（34.0%）であった．県内外とも男性が，購入すると答えた人の割合が購入しないと答えた人の割合より多かったのに対し，女性では購入すると答えた人の割合が少なかった．男女では地域経済の活性化などに対する考え方の違いが見られた．

７）経済企画庁(当時)平成11年8月6日発表資料による．

最後に，本大会に参加して塩尻に対し，どんな意識の変化があったかの設問に対し，長野県内外の男性と女性とも，塩尻に対する認知度が高くなったと答えた者が各々19人（42.2%），5人(31.3%)，18人（62.1%），15人(46.9%)で最も多かった．

本ロードレースの開催により塩尻地域へのさらなる経済活性化のためには，地域農特産物と本大会との連携，とくに広告活動の工夫など，地域民宿などの宿泊施設とのコラボレーションの一層の強化，民宿などへの財政支援などを積極的に行うべきであろう．また，前日受付制の導入や地域振興券(仮称)の発行も試みるべきであろう．折角，日本全国から2千名を超えるランナーが塩尻地域に集まるので，大会終了後そのまま解散というのは双方において大変もったいないことであろう．本ロードレースへの研究は第3回目のアンケート調査結果の成果をまとめることで終了となるが，これからの大会運営に主査者側の地域活性化のための賢明な策を期待する次第である．

【謝辞】本研究のためのアンケート調査とデータの入力・集計に，本学の鈴木ゼミ生，葛西ゼミ生，中島(弘)ゼミ生，成ゼミ生に協力してもらった．ここに記し，感謝の意を表したい．

【参考資料 1】

＜表 1：長野男性の消費支出＞

長野男性	最大値	最小値	合計	度数	平均 a	平均 b
交通費	5,000	15	38,065	27	1409.8	352.5
宿泊費	3,000	1,000	4,000	2	2000.0	37.0
飲食費	5,000	210	51,410	30	1713.7	476.0
土産代	3,000	500	22,000	14	1571.4	203.7
その他	2,500	500	3,000	2	1500	27.8

＜表 2：長野女性の消費支出＞

長野女性	最大値	最小値	合計	度数	平均 a	平均 b
交通費	1,800	200	6,300	7	900	106.8
宿泊費				0		
飲食費	4,000	500	30,700	18	1705.6	520.3
お土産代	2,500	1,000	5,500	3	1833.3	93.2
その他	500	0	500	1	500	8.5

＜表 3：県外男性の消費支出＞

県外男性	最大値	最小値	合計	度数	平均 a	平均 b
交通費	20,000	2,000	212,400	31	6851.6	3170.1
宿泊費	20,000	4,000	167,500	18	9305.6	2500.0
飲食費	20,000	500	147,500	38	3881.6	2201.5
土産代	12,000	1,000	162,900	45	3620	2431.3
その他	500	0	500	1	500	7

＜表 4：県外女性の消費支出＞

県外女性	最大値	最小値	合計	度数	平均 a	平均 b
交通費	12,000	460	123,660	22	5620.9	2248.4
宿泊費	100,000	1,200	379,700	28	13560.7	6903.6
飲食費	30,000	1,000	162,750	37	4398.6	2959.1
お土産代	30,000	1,000	162,500	39	4166.7	2954.5
その他	3,000	0	3,000	1	3000	54.5

【参考資料 2】

【第３回塩尻ぶどうの郷ロードレースの地域活性化に関するアンケート】

このアンケート調査は，「第３回塩尻ぶどうの郷ロードレース」の開催による塩尻地域活性化に関する方策を探るため，このレースに参加された方等を対象に行うものです．ご回答の結果を集計し，基礎資料として参考にするもので，個人情報保護に関する法律及び関連法令等に基づき，厳重に管理し，回答内容を個別に公表することや，本目的以外に使用することはありません．なお，このアンケート調査は，松本大学の研究者が行うもので，本ロードレースの主催者側が行うものではありません．ご協力をよろしくお願いいたします．

≪松本大学総合経営学部（成：0263-48-7200，7229）・人間健康学部（中島：48-7342）≫

Q01 基本的な事項についてお聞かせください．

１．性　　別	①男　　②女
２．年　　齢	（　　）歳
３．居 住 地	（　　）都道府県（　　）市町村
４．職　　業	①学生　②会社員　③公務員　④自営業　⑤主婦　⑥その他（　　）
５．参加形態	①選手：参加種目（　　）kmコース　・　お楽しみコース ②応援　③観客　④その他（　　）
６．出場回数	①１回目　②２回目　③３回目　④その他（）
７．同 伴 者	①家族　②友達や仲間　③夫婦　④なし　⑤その他（　　）
８．交通手段	**（主なものを1つのみ選んでください）** ①自家用車　②電車　③バス　④その他（　　）

Q02 現地での宿泊についてお聞かせください．

１．①前日に宿泊した：宿泊施設　①ホテル　②旅館　③民宿　④その他（　　）
　　：宿泊地　①塩尻市内　②塩尻市外（　　）
　②宿泊していない

２．①大会終了後，宿泊予定である：宿泊施設　①ホテル　②旅館　③民宿　④その他（）
　　：宿泊地　①塩尻市内　②塩尻市外（　　）
　②宿泊しない

Q03 現地での消費支出についてお聞かせください（大会終了後の予定も含む）.

1．交通費(現地内)	(	)円
2．宿泊費	(	)円
3．飲食費	(	)円
4．土産代	(	)円
5．その他(　　)	(	)円

Q04 大会終了後の予定についてお聞きいたします.

1．立ち寄る予定の場所：　①温　　泉(場所：　　)
　　②名産品店(品目：　　)
　　③飲 食 店(料理：　　)
　　④観 光 地(名称：　　)
2．立ち寄らず，帰る

Q05 この大会に参加を決めた理由をお聞かせください(複数回答可).

1．昨年参加して良かったから	2．ぶどうが食べられるから
3．観光に魅力があったから	4．コースが良さそうだから
5．温泉に入りたいから	6．そば，山の幸等の食事が食べたかったか
7．他の人に誘われたから	8．この大会の評判が良かったから
9．その他(　　)	

Q06 本大会の前日に受付を行い，その後ウェルカムパーティー(ワイン，ぶどう，郷土料理，バーベキューなど)などを行ってもあなたはこの大会に参加しますか.

1．参加する→**その理由は**（　　）
2．参加しない

Q07 本大会において，地域活性化の観点から「地域振興券」を発行するならばあなたは購入しますか.

1．購入する→**金額は**：①1,000円券　②2,000円券　③3,000円券　④3,000円以上券(　　円)
2．購入しない

Q08 初めて参加の方にお聞きします．この大会のことはどこで知りましたか(複数回答可).

1．ホームページ(ブログ)	2．事務局からのダイレクトメール
3．雑誌	4．スポーツショップ(店内の広告など)
5．友人・知人からの紹介	6．その他(　　)

Q09　1 回以上参加した方にお聞きします．前回の参加後，何か生活や意識などに変化がありましたか（複数回答可）．

1．塩尻に対する認知度が上がった
2．塩尻の農産物・特産物をネットなど購入した（品目は：　　）
3．塩尻(歴史，文化，生活，農特産物など)について知人などとお話しをした
4．何もなかった
5．その他（

Q10 他地域でのロードレースに参加されたことがありますか．

1．**ある→**他地域での大会と比較し，本大会の最大の良さは何だと思いますか．（　　）
2．ない

Q11 リピーターの方にお聞きします．

1．以前の大会参加時に立ち寄ったところは，どこですか（複数回答可）． ①温泉　②名産品店　③飲食店　④観光地（　　）　⑤立ち寄っていない
2．以前の大会と比べて良くなったと思う点をお書き下さい．（　　）
3．以前と比べて悪くなったと思う点をお書き下さい．（　　）

Q12 この大会に参加してのご感想，ご要望（サブイベント，賞品など）をお聞かせください．

＊ご協力いただき，ありがとうございました．お気をつけてお帰りください．